

# 2020年度 須磨学園夙川中学校入学試験

## 国 語

### 第 3 回

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、受験番号シールを貼り、受験番号と氏名を記入しなさい。

1. すべての問題を解答しなさい。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 字数制限のある問題については、記号、句読点も1字と数えること。
4. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

学校法人 須磨学園 夙川中学校

※この冊子は再生紙を使用しています。

## 一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

愛されれば幸せになれる。評価されれば幸せになれる。そうやって「愛されること」「評価されること」が自分の幸せの**ゼンダイ**になってしまっている。【Ⅰ】はたしてそうでしょうか？ そうではないとぼくは断言したいと思います。愛されることも大切ですが、それよりも愛することのほうが、断然大きな幸せをあなたに、そして世界にもたらすのだと。

もちろん誰かに愛されれば幸せでしょう。高い評価を得られれば幸せでしょう。しかし、実際にはなかなかそうならないのが人生です。あなたを熱烈に愛してくれる人とはそうそうは出会えないかもしれません。そしてあなたが常に学校でも仕事でも高い評価を得られ続けるとは限らないでしょう。そこですぐに「不幸せ」になってしまうのでは悲しすぎると思いませんか。そのときに「愛する」人はめげません。自分にはこんな素晴らしい愛するものがある。【Ⅱ】周囲からの愛が一時期途絶えても**自分の中に愛があれば耐えられる**。それどころか、幸せに生きられるのです。

世界の偉人と言われる人の多くは、人生の中で**苛酷なギヤツキョウウ**に遭遇しています。世間から認められない。間違っていると攻撃される。おかしな人だと軽蔑される。しかしそんなことではめげません。それは自分の中に愛があるからです。私が美しいと思うもの、素敵だと思ふものを皆に届けたい。差別されている人、困窮している人を助けたい……。自分の中から湧き上がってくる愛、それが人生を支えていくのです。

【Ⅲ】自分が他者からの評価、誰かから愛されるかどうかだけで決まってしまうのならば、誰もあなたを振り向かず、無視されるだけで、あなたは、**意気消沈**し、生きる気力を失ってしまおうでしょう。しかし、まったく違う人生のあり方があります。それは愛されることから愛することへの、愛される人から愛する人への大転換です。そのことに気づかず、単に落ち込んで過ごすのでは、あなたの人生はもったいなさすぎます。あなたの人生はもつと輝かしく、喜びに満ちたものになり得るのですから。

「愛されたい」「評価されたい」ということへの執着は、あなたをとて不自由にします。人であれば社会であれ、ほとんどの場合、「愛されるためにはこんな人でありなさい」「評価されるためにはこれを達成しなさい」という条件をつけてきます。それを満たさなければあなたは愛されない、評価されないと。「愛されたい人」とはその評価がとつても気になる人でもありません。自分が愛されるためには今何をしなければいけないのか、何をしてはいけないのか。そしていつのまにかあなたはそんな「愛されるための条件」にがんじがらめになってしまうのです。

そしてそれはあなたに不安と恐れをもたらします。私は今愛されるために「正しいこと」をしているだろうか。愛するに足る条件を満たしているだろうか。こんなことをしたら愛が失われてしまうのではないか。評価を失ってしまうのではないか……。そうやって私たちは「愛されること」を気にするが故に、不安と恐れにかられ、自分自身をみずから愛の奴隷にしてしまいます。そして愛が得られた、評価が得られたといって喜び、それが失われたといって悲しみ、意気消沈するという、**一喜一憂**の人生を生きることになるのです。

愛されるだけ、他から評価されることを待っているあなたは、この世界では仮住まいです。世界に間借りをしていて、ちょっとした変なことをすれば追い出されてしまう。

愛すること、そのことによってあなたは自分自身の**主人公**となります。愛することはあなたの世界を創り出し、あなたは世界に意味を与える存在となるのです。誰かに**ハイヤク**を振り分けられ、脚本家と演出家の意のままに操られる存在から、あなた自身の創造した人生の**大舞台の主人公**となるのです。

そしてそのとき世界は一気に輝き出します。愛し愛されたとき、今まで暮らしてきた世界がこんなに一変するとは。誰もが驚き、魅惑され、喜びが湧き上がってきます。その輝きと美しさを知らずに生きるのはあまりにもつたいない。愛の**シフク**は私たちの人生を、存在そのものを変えていきます。

(上田紀行『愛する意味』による)

## 一 設問

問一 【Ⅰ】・【Ⅱ】・【Ⅲ】に入る語として最も  
適当なものを後からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えな  
さい。

- 【Ⅰ】
- 1 たとえば
  - 2 しかし
  - 3 すると
  - 4 また
- 【Ⅱ】
- 1 たとえ
  - 2 しかも
  - 3 あるいは
  - 4 しかし
- 【Ⅲ】
- 1 また
  - 2 つまり
  - 3 もし
  - 4 しかし

問二 線部 a d のカタカナを漢字に改めなさい。

問三 「自分の中に愛があれば耐えられる。それどころか、幸  
せに生きられるのです」(線部ア)とありますが、  
筆者がこのように考えるのはなぜですか。その説明として、  
最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 助けたいという湧き上がる愛が自分の中にあるから。
- 2 助けようとする使命感が自分を動かす原動力になるから。
- 3 人に愛されたいという願望が愛を求める力となるから。
- 4 愛を求める欲求が愛を失わないようにさせるから。

問四 「意気消沈」(線部A)・「一喜一憂」(線  
部B)の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ  
一つずつ選び、番号で答えなさい。

- A
- 1 物思いにふけて、ぼんやりすること。
  - 2 すっかり元気をなくしてしまうこと。
  - 3 意志が弱くなって、判断に迷うこと。
  - 4 アイディアが全く思いつかないこと。
- B
- 1 次々に起こる喜びで優しい気持ちになること。
  - 2 嬉しいことの後に、悲しいことが起こること。
  - 3 何かあるときに声を出したり、泣き叫ぶこと。
  - 4 起こった事態に喜んだり悲しんだりすること。

問五 「そのこと」(線部イ)とありますが、「そのこと」  
が指す内容の説明として最も適当なものを次の中から一つ  
選び、番号で答えなさい。

- 1 人に愛されることで人生はもつと輝かしく、喜びに満ち  
たものになり得ること。
- 2 人を愛することから人に愛されるという、まったく違う  
人生のあり方があること。
- 3 人に愛されることから人を愛するという、まったく違う  
人生のあり方があること。
- 4 他者の評価、愛されるということを最も大切にする生き  
方があること。

問六 『「愛されたい』『評価されたい』ということへの執着  
は、あなたをとて不自由にします」(線部ウ)とあ  
りますが、その理由を、文章中の言葉を使って四〇字以内  
で答えなさい。

問七 「人生の主人公となります」(線部エ)とありま  
すが、どういうことですか。その説明として最も適当なも  
のを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 人生という舞台で輝くのは自分自身であり、そのために  
は自分で進路を決定していくということ。
- 2 愛を得るためには自分自身が人生の主人公として、何を  
選択し人生を切り開いていくかということ。
- 3 愛を与える存在となることで、誰かに操られる存在から、  
自分自身で人生を創造できる存在になること。
- 4 愛を与えられることによって、愛を理解し得る人生の主  
人公になることができるということ。

二

魔術の大家ハッサン・カンから魔術を習得したインド人のミスラ君は、大森にある、竹藪に囲まれた家に住んでいた。魔術を習うためにミスラ君の家を訪ねた「私」は、欲を捨てることをミスラ君と約束した。すると、ミスラ君はお手伝いのおばあさんに、「御婆サン。御婆サン。今夜ハ御客様方御泊マリニナルカラ、寝床ノ仕度ヲシテ置イテオクレ。」と言った――。

次の文章は、ミスラ君に魔術を教わってから一か月後の雨の降る晩に、魔術で金貨を出して友人たちに見せていた「私」が、友人たちにむりやり賭け事に参加させられた場面である。これを読んで、後の設問に答えなさい。(なお、現代では不適切と思われる表現があります。が、作者の意向を尊重してそのままにしています。)

友人たちは、元より私から、あの金貨を残らず捲き上げるつもりで、わざわざ骨牌注1を始めたのですから、こうなると皆あせりにあせって、ほとんど血相aさえ変わるかと思うほど、夢中になって勝負を争い出しました。が、いくら友人たちが躍起やつきとなっても、私は一度も負けないばかりか、とうとうしまいに、あの金貨とほぼ同じほどの金高注2だけ、私の方が勝ってしまったじやありませんか。するとさっきの人の悪い友人が、まるで、氣違きちがいのような勢いで、私の前に、札ふだをつきつけながら、

「さあ、引きたまえ。僕は僕の財産をすっかり賭ける。地面注3も、家作かきくも、馬も、自動車も、一つ残らず賭けてしまう。その代り君はあの金貨のほかに、今まで君が勝った金をことごとく賭けるのだ。さあ、引きたまえ。」

私はこの刹那注4に欲が出ました。テーブルの上に積んである、山のような金貨ばかりか、せっかく私が勝った金さえ、今度運悪く負けたが最後、皆相手の友人に取られてしまわなければなりません。のみならずこの勝負に勝ちさえすれば、私は向うの全財産を一度に手へ入れることが出来るのです。こんな時に使わなければどこに魔術などを教わった、苦心の甲斐かいがあるのでしよう。そう思うと私は矢も楯cもたまらなくなつて、そつと魔術を使いながら、決闘いっとうでもするような勢いで、

「よろしい。まず君から引きたまえ。」  
「九。」  
「王様。」

私は勝ち誇つた声を挙げながら、まっ蒼さおになつた相手の眼の前へ、引き当てた札を出して見せました。すると不思議にもその骨牌の王様が、まるで魂たましいがはいつたように、冠かんむりをかぶつた頭を擡もたげて、ひよいと札の外へ体を出すと、行儀ぎょうぎよく剣けんを持つたまま、にやりと気味の悪い微笑びしょうを浮うかべて、

「御婆サン。御婆サン。御客様ハ御帰リニナルソウダカラ、寝床ノ仕度ハシナクテモ好イヨ。」

と、聞き覚えのある声で言うのです。と思うと、どういふ訳か、窓の外に降る雨脚あまふしまでが、急にまたあの大森の竹藪たけやぶにしぶ

くような、寂さびしいざんざ降りざんざの音を立て始めました。

ふと気がついてあたりを見廻すと、私はまだうす暗い石油ランプの光を浴びながら、まるであの骨牌の王様のような微笑を浮べているミスラ君と、向い合つて坐すわつていたのです。

私が指の間に挟はさんだ葉巻注6の灰さえ、やはり落ちずにたまってるところを見ても、私が一月ばかりたつたと思つたのは、ほんの二三分の間に見た、夢だつたのに違いありません。けれどもその二三分の短い間に、私がハッサン・カンの魔術の秘法を習う資格のない人間だということは、私自身にもミスラ君にも、明かになってしまったのです。私は恥はにかしそうに頭を下げたまま、しばらくは口もきけませんでした。

「私の魔術を使おうと思つたら、まず欲を捨てなければなりません。あなたはそれだけの修業が出来ていないのです。」

ミスラ君は気の毒そうな眼つきをしながら、縁ぐちへ赤く花模様を織り出したテーブル掛かけの上に肘ひじをついて、静おにこう私をたしなめました。

(芥川龍之介『魔術』による)

- 注1 骨牌 …… トランプのこと。
- 注2 金高 …… 金額。
- 注3 家作 …… 貸家かしゃ。
- 注4 刹那 …… ごく短い時間。瞬間しゆんかん。
- 注5 王様 …… トランプの13のこと。
- 注6 葉巻 …… たばこの一種。

## 二の設問

問一 線部 a、c の本文中での意味として最も適当なものを後からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

- a 「血相さえ変る」
- 1 ひどくとりみだす
  - 2 ひどくこわがる
  - 3 ひどく弱気になる
  - 4 ひどくいやがる
- b 「(こ)とく」
- 1 次から次へと
  - 2 ほとんど
  - 3 残らずすべて
  - 4 少しずつ
- c 「矢も楯もたまらなくなつて」
- 1 ものたりなくなつて
  - 2 やむをえず
  - 3 むなしくなつて
  - 4 じつとしていられず

問二 「私の前に、札をつきつけ」(線部ア)とありますが、このときの友人の気持ちを説明した最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「私」の金貨をすべてうばうつもりで骨牌を始めたのに、逆に金貨を失うことになり、落ちこんでいる。
- 2 「私」の金貨が手に入ると思つて始めた骨牌で、逆に損をしたため、何とか得をしようと思死になっている。
- 3 「私」だけが勝つことをあやしく思い、不正な方法をとれないように、別の方法を提案したいと思つている。
- 4 「私」に勝てると思つて始めた骨牌で、逆に負けて損をしているので、骨牌を始めたことを後悔している。

問三 「決闘でもするような勢い」(線部イ)とありますが、これはなぜですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 相手の全財産を手に入れることができるかもしれないと思つて欲にかられ、何としても勝とうとしているから。
- 2 せっかく学んだ魔術を使う絶好の機会がおとずれたと考へて、初めて魔術を使う興奮をおさえきれないから。
- 3 目の前の金貨を友人にすべてとられてしまうかもしれないと思つと、くやしうてしかたがないから。
- 4 ここで魔術を成功させることができなければ、魔術を教へてくれたミスラ君に申しわけないから。

問四 「急にまたあの大森の竹藪にしぶくような、寂しいざんざん降りの音を立て始めました」(線部ウ)とありすが、これはどういうことを表していますか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「私」がキングを引いたことで、友人が全財産を失うことになり、絶望しているということ。
- 2 骨牌の王様の言葉は魔術であり、それによつて、外に降る雨の勢いがさらに激しくなつたということ。
- 3 ミスラ君に魔術を教わりに行つたが、実は「私」は魔術にかけられており、それが解けたということ。
- 4 「私」が禁じられた魔術の使い方をしたため、もう骨牌の勝負には参加できなくなつたということ。

問五 「しばらくは口もきけませんでした」(線部エ)とありますが、なぜですか。その理由を八〇字以内で説明しなさい。

問六 「静にこう私をたしなめました」(線部オ)とありますが、このときのミスラ君の心情を説明した最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「私」が二度と魔術を使えない人間になつてしまったことを、かわいそうだがしかたがないと思つている。
- 2 何も言わずにだまつている「私」を見かねて、今後どうすべきかを教へなければならぬと思つている。
- 3 自分が予想していた通り「私」が失敗したので、意外性がなくつまらない人間だと感じている。
- 4 口もきけない状態になつている「私」をかわいそうに思いつつも、自分の行いを反省してほしいと思つている。

問七 本文の内容に合うものとして最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「私」は最終的に勝負に勝ち、友人からすべての財産をまきあげることができた。
- 2 骨牌の勝負の最後で、友人は九の札を引いたのに対し、「私」は王様の札を引いた。
- 3 王様の札が急に「御婆サン」になり、「私」をその場から追い出そうとした。
- 4 「私」が一月だと感じていた時間は、ミスラ君にはほんの数分の価値しかなかった。

↓ここにシールをはってください↓

受験番号			

名前	
----	--

2020年度 須磨学園夙川中学校 第3回入学試験解答用紙 国語

※	※	※	※	※	※	※	一
問七	問六	問五	問四 A	問三	問二 c a	問一 I	(※の欄には、何も記入してはいけません)
			B		d b	II	
						III	

※
---

※	※	※	※	※	※	※	二
問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一 a	(※の欄には、何も記入してはいけません)
						b	
						c	



※
---

※
---